

就職活動応援特集

水の仕事を知ろう

水の仕事に興味を持ったなら 知っておきたいキーワード

広域連携

水道・下水道の施設は誰のものだろうか。家の敷地の中にあるものを除けば、おおよそ自治体のもので、皆さんの住んでいる自治体が施設の所有者として管理している。しかし、

「水道」「下水道」という呼び方がよく使われますが、それぞれの自治体には水道・下水道を担う部署がそれぞれあります。

自治体では、水道・下水道のプロの職員が揃っています。そして人口が減って得られる料金収入も減り、自治体の下水道の経営体力が弱っています。そこで、広がっているのが広域連携です。

隣同士の自治体で一緒にできる仕事がないか、一緒に上下水道の施設を持つことで管理しなればならぬ施設を減らせないか、技術力のある職員が複数の自治体を担当できるか、各地で連携が進んでいくか、

それが連携が進めば、自治体の仕事を受ける民間企業にもスケールメリットが出てきます。



県内自治体が集まり連携策を議論(長野県)

官民連携

日本の上下水道の経営は、一部を除いて自治体が行っている。この新聞に掲載されている企業は、自治体から施設設計・建設・管理を任されたり、施設を作るために必要な機械や材料を製造、供給しています。自治体を持つ公的な役割と民間企業が持つ技術や生産力、そして地域を問わずに仕事ができる機動力が組み合わさって上下水道事業は成り立ちます。

自治体の内部では、人事異動が頻りにあります。また、近年は職員数も減り、上下水道の専門ノウハウを持つ職員の確保が難しくなってきました。そこで専門的なノウハウに長けた民間企業に業務をまかすことで、任せていく動きが急速に進んでいます。

民間企業が担える仕事の幅が広がり、ビジネスチャンスが拡大しているとも言えるでしょう。上下水道を経営する自治体にとって、民間企業はこれまで以上に重要なパートナーになっています。



宮城県では昨年から上下水道一体官民連携運営事業が開始

DX

令和3年9月、デジタル庁が発足し、国を挙げたデジタル社会の形成に向けた動きが本格的に動き出しました。水道・下水道も例外ではありません。各地で事業の高度化、効率化に向けたDXの活用が進んでいます。

大規模な都市では、インフラに関する膨大なデータを活用するための取組が進んでいます。一例として、老朽化するインフラの状況把握を管理する中で集めたデータの傾向から解析し、破損等の事故を未然に防ぎたいという目的で、多くの自治体のデータを融合して全国的に活用する動きや、人工衛星が得る反射電波の画像データを活用した漏水調査なども行われています。

水道・下水道がDXを希望する理由の一つは、担い手不足という問題もあります。人口が減る中で、水道・下水道に入職する若手は貴重な人材です。今が水道・下水道をより魅力的な職業にしていくための大きな転換点であり、現場をより働きやすい仕事環境とし、全国に張り巡らされた水道・下水道インフラの活用を高めることがDXの推進の中核求められます。



多様な現場でDX活用が進む

エッセンシャルワーカー

水道・下水道の仕事は「一人が限りの働き方ではない」と言われ、安定性が一つの魅力になっています。コロナ禍を機に「エッセンシャルワーカー」(必要不可欠な仕事を担う人)という言葉が一般的になりましたが、いかなる状況下でも安全な水を絶えず供給し、使った水をきれいにする水道・下水道の仕事に従事する方は、まさに「エッセンシャルワーカー」です。その重要性は平時だけでなく、災害時にも同様求められます。各地で相次いでいる豪雨災害は、気候変動によって地球上の水の姿が大きく変わった結果でもあります。豪雨だけでなく、地震や火山噴火などの自然災害などから人の命と営みを守ることが水の仕事の使命と責任です。恵みと愛、双方の視点から水の仕事は不可欠な存在であり、命と営みを守る使命と責任を24時間365日果たさなければならないから「一人が限りの働き方ではない」といえる仕事であり、安定性がもたらされています。



事故時など24時間365日地域の水を守る

肥料利用

昨年9月、岸田文雄首相が下水汚泥(下水処理後に残る固形物)の肥料利用の拡大を指示しました。これは、リン等の肥料原料の全量を輸入に依存していることや、ロシアのウクライナ侵略等による食料安全確保上のリスクの高まりを受け、肥料の国産化・安定供給を目的としたものです。これを機に、今年3月末には、農林水産省と国土交通省が、都道府県と市町村の下水道、農政当局に対し、下水汚泥の肥料利用の拡大に向けた連携体制や安全性の確保に向けた取組を実施するよう通知しています。

これまでも下水汚泥を活用した肥料による農産物・水産物の生産が行われてきましたが、さらなるリンの回収や、肥料の安全性および環境把握に向けた実証事業などが活発化しています。下水事業は、将来の安全かつ安定した食料生産における重要な役割を果たしています。



国の食料安全保障に向け下水汚泥に注目が高まる

水の展示会に行こう!

水関連の企業が一堂に会するイベントが、学生の皆さんを待っている。下水道展が8月1~4日に札幌ドーム(札幌市)で、水道展が10月18~20日に東京ビッグサイト(東京都)で開催の予定だ。近年は新型コロナウイルスの流行により開催の自粛や縮小を余儀なくされていたが、今年はコロナ禍以前と同様の規模での開催を予定している。同展示会ともに、水道・下水道の実務者が集い、最新の技術に触れる場となっているが、出展する企業は学生の参加も歓迎している。ぜひ、展示会を訪れ、企業の技術や雰囲気に触れてほしい。



下水道展22東京



名古屋水道展

管清 PRIDE

街を支える。未来へつなげる。

水、管理のプロ、管清工業。

KANSEI
管清工業株式会社